

す 9月 るりに澄む

令和7年度 原山中だより

【第5号】令和7年9月1日発行

戦後80年

校長 遠藤 敏恵

始業式には、久しぶりに皆さんの元気な姿を見ることができてほっとしました。この夏休み中も、大会やコンクールと、様々な場面で活躍する皆さんの姿を追いかけて、私も充実した時間を過ごすことができました。また、浦和まつりでは地域のお神輿を担ぐ卒業生の姿を見つけたり、自治会のお祭りに参加しお手伝いをした生徒へ、感謝のお手紙をいただいたりと、学校だけでなく地域でも活躍している皆さんのお話が届き、嬉しく思いました。暑い夏でしたが、皆さんの行動力には、本当に驚くばかりです。一方で、学校が始まり、何となく心や体に不調を感じている人もいるかもしれません。そんな時には一人で抱え込まず、担任の先生等に相談してくださいね。一緒に解決の方法を考えていきましょう。



始業式でも少し皆さんにお話ししましたが、私はこの夏、沖縄県を訪れました。沖縄は本島とその周辺の15の離島から成る、第2次世界大戦末期、日本で唯一地上戦が繰り広げられた地です。今回私は予てからの希望が叶い、沖縄戦最大の激戦地となった糸満市にある平和祈念公園を訪れることができました。約40ha(駒場スタジアム約50個分!)もの広大な園内には、「鎮魂、祈り、平和」をテーマに、墓苑や慰霊塔・碑をはじめ、沖縄戦の資料を展示する資料館や祈念堂、広場などが点在していました。エメラルドグリーンの海を背景に、穏やかで美しい花が咲き乱れるこの公園が、80年前、多くの方々が犠牲となった地

であるなんて、俄かには信じられませんでした。資料館に足を踏み入れ、当時の惨劇を表す写真や生き残られた方々の証言を目にすると、足がすくみ胸が苦しくなりました。右の言葉は、展示の最後に掲げられていたものです。戦後80年の今年、改めて、戦争の残虐さ、多くの犠牲を強いられることを心にし、「戦争を許さない」という努力をし続けなければ、と強く感じました。

沖縄戦の実相にふれるたびに
戦争というものは
これほど残酷で、これほど汚辱にまみれたものはない
と思うのです

この、なまじましい体験の並列は
いかなる人でも
戦争を肯定し美化することは、できません

戦争をおこすのは、たしかに、人間です
しかし、それ以上に

戦争を許さない能力のできるのも
私たち、人間、ではないでしょうか

戦後このかた、私たちは
あらゆる戦争を憎み
平和な世界を建設せねば、と思いつけてきました

これが
あまりにも大きすぎる代償を払って得た
ゆずることのできない
私たちの信条なのです

夏休み中も、多くの保護者の皆様、地域の方々にお世話になり、ありがとうございました。お陰様で子どもたちも、順調に2学期のスタートを切ることができています。合唱コンクールや新人戦、3年生はいよいよ本格的に進路選択に向けた取組が始まる今学期も、どうぞよろしく願いいたします。まだまだ暑さが続きますがどうぞご自愛ください。